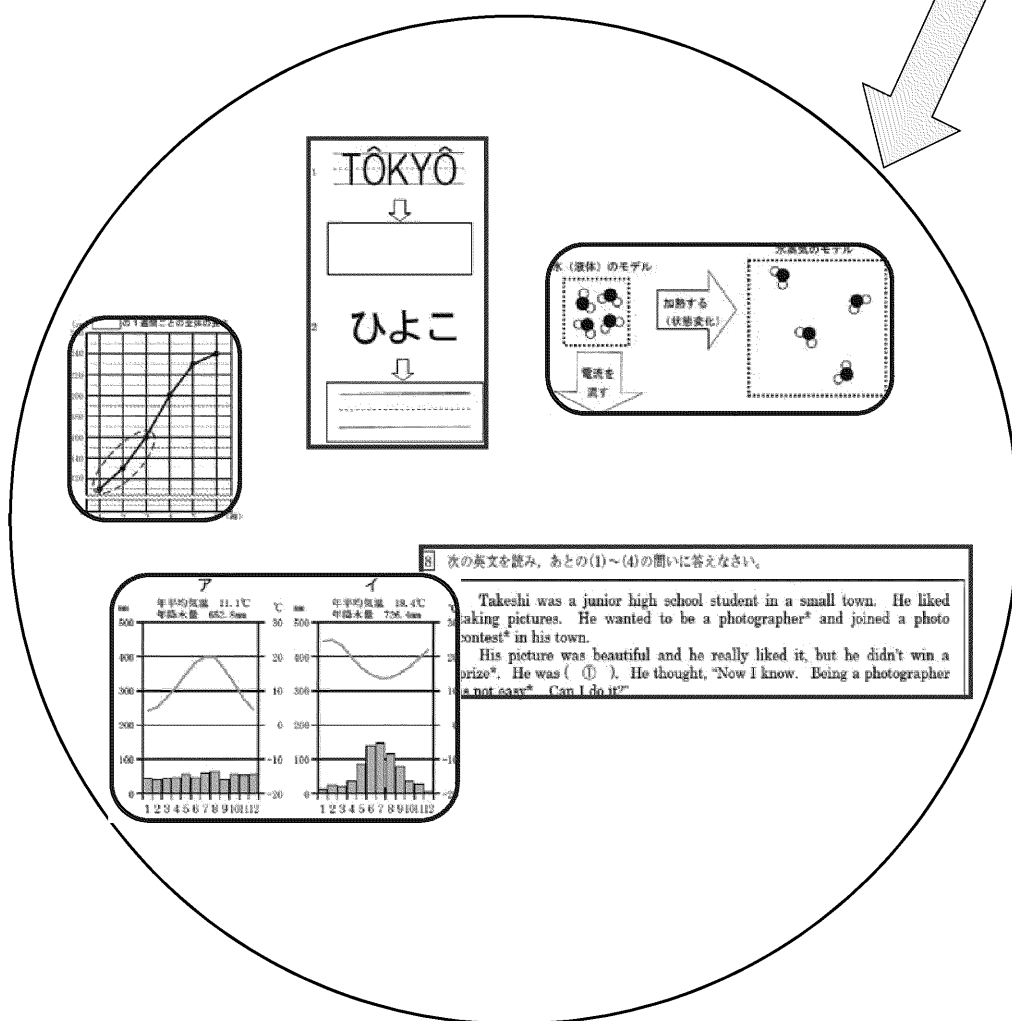


平成29年度

鹿児島学習定着度調査結果報告書

(平成30年1月調査)

～調査結果を生かした授業改善の手引～



1. TOKYO
↓
ひよこ
↓

水(液体)のモデル
加熱する(状態変化)
↓
蒸気を蒸す

水蒸気のモデル

ア 年平均気温 31.1℃ 年降水量 652.5mm
イ 年平均気温 18.4℃ 年降水量 738.8mm

次の英文を読み、あとの(1)～(4)の問いに答えなさい。

Takeshi was a junior high school student in a small town. He liked taking pictures. He wanted to be a photographer* and joined a photo contest* in his town.
His picture was beautiful and he really liked it, but he didn't win a prize*. He was (①). He thought, "Now I know. Being a photographer is not easy*. Can I do it?"

平成30年3月



鹿児島県教育委員会

目 次

I	調査の概要	1
II	本調査の活用の仕方	3
III	各教科の結果	
1	各教科の全体平均通過率	5
2	各教科の結果概要	6
3	各教科の平均通過率と受検者の正答数分布（県全体）	
(1)	小学校	
ア	国語	8
イ	社会	9
ウ	算数	10
エ	理科	11
(2)	中学校	
ア	国語	12
イ	社会	14
ウ	数学	16
エ	理科	18
オ	英語	20
4	各設問の分類と平均通過率	
(1)	小学校	
ア	国語	22
イ	社会	23
ウ	算数	24
エ	理科	25
(2)	中学校	
ア	国語	26
イ	社会	28
ウ	数学	30
エ	理科	32
オ	英語	34
5	地区別の平均通過率	36
6	各教科の授業改善の視点	
(1)	国語	37
(2)	社会	38
(3)	算数・数学	39
(4)	理科	40
(5)	英語	41
IV	児童生徒質問紙の結果概要	42
V	参考資料	
○	県全体の小問別の正答数・誤答数・無解答数	

I 調査の概要

1 趣旨・目的

学習指導要領において身に付けることが求められている基礎的・基本的な知識・技能や思考力・判断力・表現力等に関する学力状況を把握するとともに、児童生徒の学習に関する意識や学び方などの学習状況を把握する。

また、各学校に全県的な傾向との比較・分析などを通じて、自校の課題を明確にさせ、問題解決的な学習活動を取り入れるなど教員の指導法改善を図るとともに、児童生徒の学力向上を図る。

2 調査の対象学年、学級等

- (1) 県内すべての公立小学校第5学年、中学校第1，2学年の全学級の児童生徒を調査対象とする。ただし、複式学級を有する学校においては、履修していない内容を調査から除外して実施する。なお、小・中学校における特別支援学級の児童生徒については、該当学年の学習内容を履修していない教科・内容を調査から除外して実施する。
- (2) 特別支援学校においては、該当学年の学習内容を履修している児童生徒を調査対象とする。

学校種	学年	実施校	調査児童生徒数
小学校(小学部)	第5学年	501校	13,342人
中学校(中学部)	第1学年	216校	12,067人
	第2学年	217校	12,047人

※ 本調査に関わる調査問題、報告書等において、義務教育学校の第7学年を中学校第1学年、義務教育学校の第8学年を中学校第2学年、義務教育学校の前期課程を小学校、後期課程を中学校と読み替えることとする。

※ 調査対象学年に在籍者がいない学校は除く。

※ 調査児童生徒数は1教科でも学力調査を実施した児童生徒の総数を示す。各教科の調査人数は、欠席等により異なる。

3 調査の内容

学力調査

主として「基礎・基本」に関する内容と主として「思考・表現」に関する内容で出題し、調査対象教科の学力の定着状況（当該学年の12月終了程度までを範囲とする）について調査する。調査対象教科は以下のとおりである。

【小学校(小学部)】 第5学年 …… 国語、社会、算数、理科

【中学校(中学部)】 第1，2学年 …… 国語、社会、数学、理科、英語

学習状況調査

質問紙により、調査対象者の学習に関する意識や学び方などの学習状況について調査する。

4 調査の実施時間

学力調査

小学校(小学部) 45分(調査票の配布・説明等5分、調査時間40分)

中学校(中学部) 50分(調査票の配布・説明等5分、調査時間45分)

学習状況調査

小・中学校(小・中学部) 15分(調査票の配布・説明等5分、調査時間10分)

5 調査の実施日

学力調査 平成30年1月17日(水)・18日(木)

学習状況調査 平成30年1月17日(水)～19日(金)

6 調査の採点及び結果の集計・分析

- (1) 各学校は、自校の児童生徒の調査について採点・集計を行い、当該市町村教育委員会へ報告する。また、集計結果をかごしま学力向上支援Webシステムに登録する。自校の調査結果については、保護者に対して説明責任を果たすと同時に、かごしま学力向上支援Webシステムの速報結果も参考にしながら、今後の指導方法や学び方の改善に生かす。
- (2) 各市町村教育委員会は、管下の学校の調査結果を集計し、県教育委員会へ報告する。自市町村の調査結果については、かごしま学力向上支援Webシステムの速報結果も参考にしながら、自市町村の学力向上や指導法改善への取組に生かす。
- (3) 県教育委員会は、調査結果を集計・分析し、県全体の学力の定着状況について公表するとともに、指導方法の工夫改善の参考となる資料を作成し、各学校に配布することにより、各学校の学力向上への取組を支援する。

7 学力調査の問題内容（思考・表現）

鹿児島学習定着度調査は、次の二つの内容で出題している。

- ① 主として「基礎・基本」に関する問題
- ② 主として「思考・表現」に関する問題

②の問題は、次の内容を問うものとする。

教科名	番号	主として「思考・表現」に関する問題の内容
国語	1	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用して課題解決する問題
	2	身近な資料を用いて、表現の仕方や文章の特徴を捉え、自分の表現に役立てることができるようにする問題
	3	複数の情報を関連付け、それをもとに自分の考えを論理的に書くことができるようにする問題
社会	1	社会的事象の特徴や背景・原因等について、自分の考えを筋道立てて説明する問題
	2	提示された資料を関連付けたり、比較したりして読み取ったことをもとに、社会的事象について説明する問題
	3	歴史的事象の相互の関係を判断したり、社会的事象について正しく説明しているものを判断したりする問題（選択肢による出題）
算数・数学	1	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用して課題解決する問題
	2	示された課題解決の過程を、新たな課題に活用して解決する問題
	3	課題解決の方法や判断の根拠などを言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、筋道立てて説明する問題
理科	1	観察、実験の結果（事実、データ）から結論を考察する問題
	2	原理、法則を他の身近な現象に当てはめて説明する問題
	3	視覚的に実感しにくい現象をモデルで説明する問題
英語	1	「聞くこと」においては、聞き取った英語を基に、英文を完成させたり、英語の質問文に英語で答えたりする問題
	2	「読むこと」においては、文と文のつながりや段落と段落の関係、内容に合う英文選択などを問う問題
	3	「書くこと」においては、対話やまとまりのある文章における流れや文と文のつながりに留意し、適切な英文を書く問題

○ 各教科の「各設問の分類と平均通過率」の「思考・表現」の欄に番号が記載されている。

Ⅱ 本調査の活用の仕方

- (1) 各教科で出題されている問題の内容や平均通過率について、領域や単元ごとの通過率や無解答率の状況等を確認して学校全体で情報共有や対策を検討する。
- (2) 自校の平均通過率の高かった問題や低かった問題、県平均通過率との差が大きかった問題等について、成果や課題を明らかにする。その上で、これまでの指導法を振り返りつつ、今後どのような指導法が成果を更に伸ばし、課題克服につながるのか、校内で情報を共有する。
- (3) 本調査は単に該当する学年の状況のみを問うものではないため、校内で指導法を共有する際には、学年・教科を超えて全体で共有する。特に、学校全体で課題として共有することについては、各教科等の年間指導計画の中に重点事項としての取組内容等を朱書きする。

1 自校結果の把握

- 全体として各教科バランスよく学力が定着しているのかを確認するため、領域や単元ごとの通過率や無解答率の状況を県全体の平均通過率も踏まえて分析を行う。
- 学習状況についても児童生徒質問紙の結果を生かして、指導法の改善や学習習慣の確立に取り組む。
- 各教科の単元ごとの学力が定着しているのか確認するため、小問ごとの通過率を確認する。「4 各設問の分類と平均通過率」(p. 22～)には、自校結果を記入するための欄を設けているので、中間まとめで配布した表計算ファイルに自校の通過率を入力したり、校内研修等で各教員が記入したりして活用することも有効である。
- 自校結果の把握に当たっては、単に平均通過率だけの把握にとどまることなく、児童生徒の誤答傾向に着目し、分析していくことが、指導法改善には有効である。

2 自校結果の活用

- 自校の結果についてその特徴を明らかにしたら、その要因を把握する。その上で、これまでの指導法を振り返りつつ、今後どのような指導法が成果を更に伸ばし、課題克服につながるのか、校内で情報を共有する。
- 成果の上がっている学校について、市町村教育委員会等と連携を図り、授業参観を行うなどして、その学校の取組を学び、児童生徒の実態に合わせて自校化する。
- 成果の上がっている取組については、学校全体で情報を共有し、これからも継続して学校全体で取り組む。
- 改善を要する取組については、その方法をできるだけ具体的に。また、その取組については、いつ、どの単元の中で指導するのか具体的に年間指導計画の中に朱書きして、今後の取組を行う。
- 改善策を策定する際には、併せて評価の計画も立て、指導の結果の振り返りを行う。
- 課題となっていることについては、当該単元での指導だけでなく、必要に応じて学年を超えて定着の確認をしたり、補充指導をしたりするなど学校全体（教科全体）での取組を行う。
- 学校全体の分析と同様に、児童生徒一人一人について調査結果からうかがえる児童生徒の実態を把握し、再指導を実施する。
- 「6 各教科の授業改善の視点」(p. 37～)を参考にしたり、「かごしま学力向上支援Webシステム」に掲載されている評価問題を単元末等に活用し、学習の定着を確認することも有効である。

3 本調査結果を生かした年間指導計画例

理科年間指導計画 第5学年

〇〇小学校

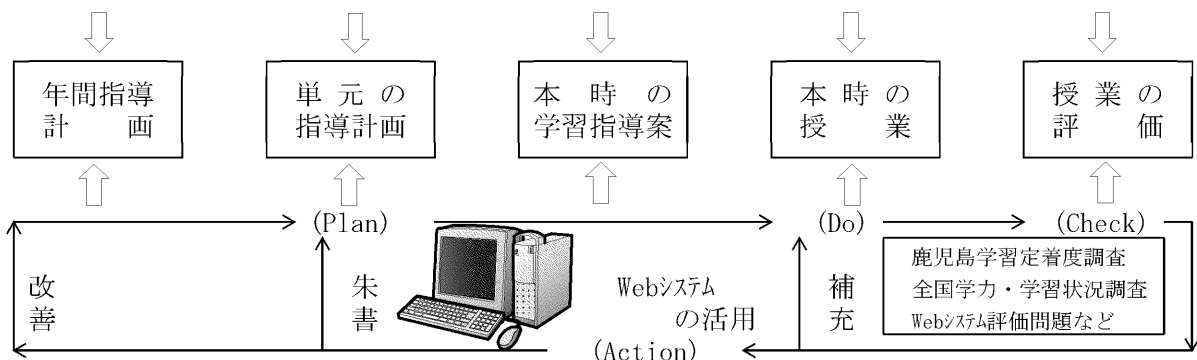
※ 指導計画に自校の平均通過率、県平均との差、指導の重点を朱書きしたもの。〔 〕は取組内容。

月	単元名・時数	時数	主な学習活動
4	1 天気の変化 8(9)	1	これまでの経験などから、雲と天気の変化について話し合う。
11	7 物のとけ方 15(16)	1	食塩を水に入れ、食塩が溶ける様子を観察して、気づいたことを話し合い、水溶液について知る。
		1 (2)	食塩は、水に溶けると重さがどうなるかを調べ、まとめる。(実験①) ※【H28定着度調査】の課題：「水溶液を粒子モデルで表現する」 69.3%(-4.7%) [思考させ、教科書の図に粒子モデルを書かせる。]
		2	食塩とミョウバンが水に溶ける量には限りがあるかを調べ、まとめる。 (実験②) (巻末基礎操作) ※【H27全国学調】【H28定着度調査】の課題：「ヌリシリンダーの使い方」 55.5%(-4.7%) 56.0%(-6.2%) [基礎操作の理解、パフォーマンステスト]
		2	食塩とミョウバンをもっとたくさん溶かす方法について話し合い、水の量を変えて、食塩とミョウバンの溶ける量を調べる。(実験③)
		2	水の温度を変えて、食塩とミョウバンの溶ける量を調べる。(実験④)
		2	更に水の温度を上げて、食塩とミョウバンの溶ける量を調べる。 (実験⑤)
		2	水溶液を冷やすと溶けていた物を取り出すことができるかを調べて、まとめる。 (実験⑥)
12		2	水溶液を熱して水を蒸発させると溶けていた物を取り出すことができるかを調べて、まとめる。 (実験⑦) ※【H27定着度調査】の課題：「食塩水が減ると食塩が出てくる理由」 32.4%(-8.5%) [自分の考えを書かせ、グループで練り合わせる。]
		1	物の溶け方について、学習したことを小テスト等で確認する。 〔Webシステムの評価問題や定着度調査問題の活用を図る。〕
		1	人の母体内での子どもの成長を想像して、疑問を話し合い、調べることを決める。
1	8 人のたんじょう 5(6)	3	人の母体内での子どもの成長を調べる方法を考え、計画する。 人の母体内での子どもの成長を、資料などで調べる。(調査①)
		1 (2)	人の母体内での子どもの成長について、調べたことを発表する。 人の母体内での子どもの成長変化についてまとめる。

【指導計画見直しのサイクル】

よりよい授業を構想するためには、実践に基づいた指導計画を立てる必要がある。また、指導計画は授業を行った後に適切な評価を行うなどして、改善していかねばならない。そのためには、「計画(Plan)」（年間指導計画、単元の指導計画・評価計画、1単位時間の指導計画・評価規準）—「実施(Do)」（本時の授業）—「評価(Check)」（授業の評価）—「改善(Action)」（計画の見直し）のサイクルを下図のように繰り返しながら、絶えず見直し、改善していくことが大切である（評価の際に本調査の積極的な活用を図る）。

- ① 指導目標の深い理解（学習指導要領及び学習指導要領解説の熟読、学校教育目標の理解）
- ② 学校、児童生徒等の実態や課題の把握（各種学力調査、自校での評価資料）
- ③ ①、②を踏まえ、それを実現するための手法（教材研究、教材開発、指導法研究等）



（「平成29年度教職員のための研修の手引」 鹿児島県教育委員会 参照）

III 各教科の結果

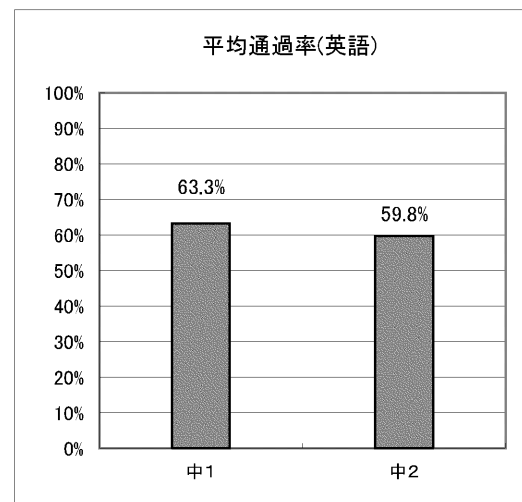
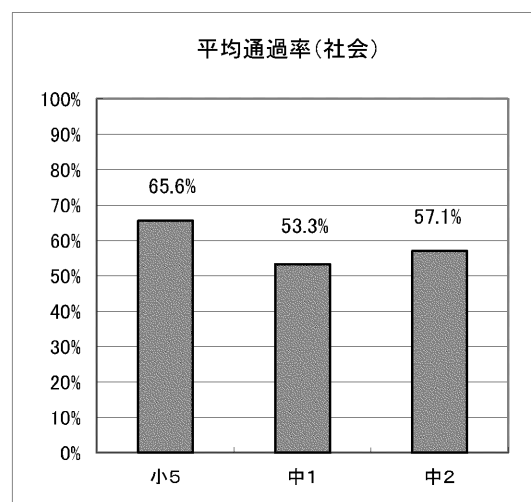
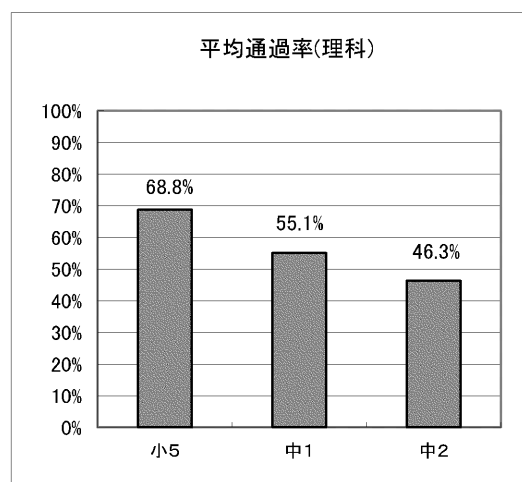
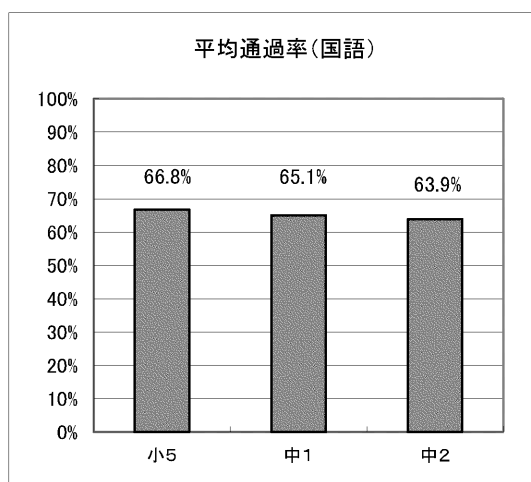
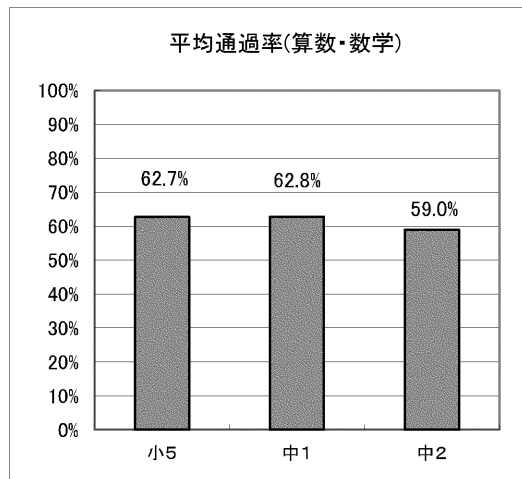
1 各教科の全体平均通過率

ここでは、教科ごとに調査実施学年の全体平均通過率を示しており、本県の総合的な学力の定着状況の概要を、教科・学年ごとに見ることができる。

(1) 各教科全体の問題数に対して、主として「基礎・基本」に関する問題を7割程度、主として「思考・表現」に関する問題を3割程度で出題した。

※ 新学習指導要領を踏まえ、「思考・表現」に関する力の育成を更に充実するため、各教科とも考えをまとめ表現する問題の質的な向上を図った。

(2) 「基礎・基本」及び「思考・表現」の問題ともに、各教科・学年において改善の傾向も見られるものもあるが、依然として課題が継続しているものがある。



2 各教科の結果概要

- 「基礎・基本」の問題に関しては、表現された言葉や内容を正確に理解する力、表やグラフを読み取る力、観察器具の適切な使い方などで、基礎的・基本的な内容が定着していない様子が見られた。
- 「思考・表現」の問題に関しては、図、表、グラフ、資料等を関連付けたり、自分の考えを根拠を基にして記述したりする問題、習得した知識・技能を日常生活の場面で活用していく問題等について、通過率が低く、無解答率も高くなっている。
- 過去に課題となった内容について、追跡する問題を全教科合わせて74題出題した。7割程度の問題において通過率が上昇するなどの改善が見られるものの、課題が継続している問題もあり、更なる指導法改善の取組が必要である。

【国語】

	基礎・基本	思考・表現	全体
小5	73.1%	45.8%	66.8%
中1	68.0%	57.6%	65.1%
中2	68.5%	53.2%	63.9%

- 「基礎・基本」については、各学年とも、十分に定着しているとは言えない状況である。小5においては、これまでの諸調査で定着が不十分であった手紙の後付けのきまりについて改善が見られなかった。中1においては、文章構成や内容について、表現上の特徴や工夫を捉えられるようになってきた。中2においては、敬語や書写、古語に関する基本的な問題において、定着が不十分なところが見られた。

また、全学年で平易な文章を読んで、情報を読み取る問題を出題したが、課題が残った。

- 「思考・表現」については、今年度、問題文中の資料の分量や図表やグラフ、新聞記事等の情報量を意図的に増やして出題した結果、無解答の割合が非常に高くなった。提示された複数の資料から必要な情報を素早く、的確に読み取り、それらを生かして分かりやすく表現する学習の展開が必要である。また、授業中の言語活動の充実について、更に相手意識や目的意識を明確にし、活動させていく必要があることが明らかになった。

【社会】

	基礎・基本	思考・表現	全体
小5	69.4%	57.0%	65.6%
中1	59.2%	39.3%	53.3%
中2	61.4%	46.9%	57.1%

- 「基礎・基本」については、地理的分野において定着が十分でない。特に、小5の国土の様子に関する問題、中1の気候の特徴と雨温図の関連を答える問題、中2の時差を求める問題、地形の特色や名称を答える問題の平均通過率が低い。また、前年度までの類似問題については、概ね改善されているが、地図やグラフ等の特色を答える問題は、まだ課題が残る。
- 「思考・表現」については、資料やグラフから読み取ったことを使って社会的事象の特色等を説明する問題に課題がある。どの学年でも無解答率が10%を超える問題もあり、特に、中1・中2では、時代の特色や社会的事象の特色について、資料等と関連付けて説明する問題の平均通過率が低い。資料や地図等の特色を多面的・多角的に捉える学習を繰り返し行うなど、着目する視点を意識して説明する学習活動の充実を図りたい。

【算数・数学】

	基礎・基本	思考・表現	全体
小5	72.6%	43.9%	62.7%
中1	67.7%	50.6%	62.8%
中2	66.8%	44.3%	59.0%

- 「基礎・基本」については、各学年とも、十分に定着しているとは言えない状況である。小5においては、倍の関係にある2つの数量を表す線分図の問題、四角形の面積を既習の図形に分けたり、全体から引いたりして求める問題、中1においては、比を活用して表を完成させる問題、全体に対する割合を求める問題に課題がある。中2においては、反比例の関係の判断、連立方程式の文字の意味、等式の変形、三角形の合同の判断、投影図に課題がある。
- 「思考・表現」については、各学年とも記述式の問題の通過率が低い。小5においては、グラフの読み取りや複数のグラフを関連付けて解答する問題、中1においては、文字を用いて説明したり、問題から数量関係を捉え、課題について説明したりする問題、中2においては、文字式を用いた説明や度数折れ線の特徴を比較して説明したり、表から読み取れることを根拠に数値等を用いて説明したりする問題に課題がある。

【理科】

	基礎・基本	思考・表現	全体
小5	65.9%	73.4%	68.8%
中1	59.7%	46.9%	55.1%
中2	56.3%	28.5%	46.3%

- 「基礎・基本」については、小5は追跡調査である水の三態変化や温められた水の動きについて前回は上回っているが、早座早見盤の使い方や乾電池のつなぎ方による電流の大きさの違いについて課題がある。また、新規で出題した問題について定着が図られていない。中1では顕微鏡の使い方は改善が見られたが、裸子植物のつくり、音の伝わり方の問題などに課題がある。中2では「学力向上に関する重点課題」と同一問題である水溶液の濃度を求める問題、物体がおよぼす重力や圧力を求める問題などに課題があり、定着が図られていない。
- 「思考・表現」については、小5は定着が図られているが、中1、中2は定着が図られていない状況である。中1では、光が平行にずれる理由やレンズを半分隠したときの像のでき方、中2では追跡調査である化学変化を分子モデルで表現する問題、台風と低気圧の関係を思考する問題等で課題が見られた。習得した知識・技能を日常生活の場面で活用して思考していく問題について、課題が継続している。

【英語】

	基礎・基本	思考・表現	全体
小5	—	—	—
中1	68.4%	55.9%	63.3%
中2	64.4%	52.6%	59.8%

- 「基礎・基本」については、中1は、対話文の流れから状況を判断して語順に留意し、〔三人称の主語＋be動詞語＋補語〕の文を作ることや、まとまりのある英文を読んで指示語の指す内容を答えること、中2は、文脈に沿って適切な動詞を正しい形で書くこと等に課題がある。
- 「思考・表現」については、中1は、まとまりのある英文を読んで内容に関する質問に答えること、与えられたメモをもとに正確に英文を書くこと、中2は、まとまりのある英文を読んで、文脈を理解して人物の気持ちの根拠となる部分を読み取り説明すること、メールのやりとりの流れに沿って適切な内容の英文を正しく書くこと等に課題がある。